

あいのかぜ

Vol. 48

2021年

新しい生活様式 新しい働き方

- 医療現場の最前線で「新しい働き方」を探る!
- これからの家庭を支える家事代行サービスとは?
- 「リモートワーク」という新しい働き方
- 移住者視点の新しい生活様式
ほか



人と人とのつながりが必須とされる 医療現場の最前線で「新しい働き方」を探る!

「新しい生活様式」・「新しい働き方」について、地域医療の中枢で働く人は、今、何を思うのか…。令和2年夏、富山市立富山市民病院の看護師お二人にインタビューさせていただきました。

インタビュー
スタート!



看護師を目指したころから 現在までのお話を伺いました。

「入職当時、男性看護師(当時の名称は看護士)は少数派でした。」とおっしゃる村中さん。就職氷河期とよばれた就職難の社会状況下に「国家資格」を目指して勉強し、念願叶ったときの記憶は今も鮮明です。新人時代の働く環境ではやりがいと新鮮な学びがあったとのことですが、26年というキャリアを積んだ今もご自身を進化させるための努力を惜しみません。現在の職場では、担当業務はもちろん会議や学会に参加されるなど、多くの役割をこなしておられます。丁寧で穏やかな話し方が印象的です。

矢野さんは笑顔が素敵な女性看護師。マスクをつけてお話を伺っていても、その明るさと気持ちの強さがしっかり感じられるほど。学生時代に観たテレビドラマで活き活きと活躍する看護師に魅力を感じ、いつの日か看護師になることが目標になりました。現在は入職14年目、結婚・出産を経て、家事や育児と仕事をバランスよくこなすところは「新しい働き方」の理想型です。「限られた時間や環境を有効に使うことが習慣になっただけ。」と笑って話す姿は、家庭でも職場でもムードメーカーなのだと言っていました。

医療現場に「新しい働き方」を 取り入れたことでより良くなった ことはありますか?

「これからの社会変化を見据え、変わることで、効率化を図る良いタイミングになった業務もあります。」と村中さん。業務管理の分野では、会議や学会のリモート化が進んだことで移動や準備にかかる時間を削減でき、また、機材や資料、場所の手配の省力化にもつながるなど、新型コロナウイルスの影響で少し強引な変わり目ではあったけれど、良い方向に結果がでているそうです。

看護の現場でも、いつも以上に時間内勤務を徹底することで、看護師一人ひとりの体調や時間の管理が向上しています。「いのち」を預かる大切な仕事なので、私たちが健康でいることも大事です。」と矢野さん。その言葉から、医療の最前線で「いのち」と向き合う日々の緊張感が伝わってくるようでした。



対人業務が欠かせない看護の現場で 「ソーシャルディスタンス」の壁は ありますか?

「患者さんの近くにいる表情を確認したり、交わす言葉で変化に気づいたりすることが看護業務の軸なのに、そこに制限があるととてもストレスに感じます。患者さんも心細いでしょうし、看護師ももっと寄り添って看護したいと考える人がほとんどでしょう。」と矢野さん。ここでも看護師としての誇り高い一面をみることができました。

「近づく限界と離れる限界のバランスを現場の一人ひとりが考えて動く。そうできることが次の課題です。」と、まだまだ進化し続ける村中さんの心強い一言でした。



profile



村中 弘志 さん

看護部 手術滅菌管理科 主幹
平成6年入職 看護師歴26年
富山市(旧八尾町)出身 富山市在住
妻と子2人の4人家族



矢野 瞳 さん

看護部 高度管理治療科 主任看護師
平成18年入職 看護師歴14年
富山市出身 富山市在住
夫と子1人の3人家族

時間の有効活用が上手なお二人、 家族と過ごす時間や想いも 気になります。

お休みの時はお子さんと一緒に「料理」をして過ごすこともある村中さん。ご夫婦ともに看護職に就かれ、勤務時間が不規則なことから、家事も育児もご夫婦でやってくれたそうです。「当初は出来なかったことも、妻の指導のおかげで上達したと思います。」と、教えてくださいました。新しい生活様式を意識することがあるかと村中さんに聞いてみると、「子どもたちの授業がオンラインになるなど個々の環境に変化は感じますが、家族の対話や時間の使い方はさほど変わっていません。」と話された後、「急変することで不便を感じる年配の方にも協力的な社会になってほしいと思っています。」と優しい一言。

看護師の凛々しい顔、娘を愛する母の顔、夫の協力に感謝を忘れない妻の顔、そして趣味が「よさこい」というとてもアクティブな面もある矢野さんは、いつものように踊れないことが残念でならない様子。新型コロナウイルスの影響で行動するには制限が多い状況ですが、芸能、芸術といった分野にも「新しいカタチ」を取り入れる時なのかもしれません。

緊張の続く医療現場の最前線で「いのち」に向き合いながら、プライベートでも、「大切な家族を守るため、家庭内のソーシャルディスタンスも慣れっこになりました。」と矢野さん。新たな環境にも順応せざるをえない、少し切ない気持ちが伝わってきます。村中さんも矢野さんも医療従事者であると同時に、私たちと同じ、大切な家族がいる市民の一人でもあるわけです。



看護師の魅力とやりがいを 伺いました。

女性の職場と思われがちな看護現場ですが、実は多くの男性の看護師が活躍しています。男女の隔たりのない看護師の働き方には、思考・体力などそれぞれの良さや特性をバランスよく出し、そして補いあうことで成長できるという魅力がたくさんあります。

「対話で解決できることはたくさんあります。こんな時だからこそ、職場でも家庭でも、いつも以上に対話することをおすすめします。」との村中さんのアドバイスには大きく頷きました。人と人とのつながりのプロフェッショナルである看護師のお二人は、物理的なソーシャルディスタンスの分だけ気持ちに寄り添うことを大切にされています。

「患者さんが元気になり感謝されるときが一番やりがいを感じます。」とお二人とも同意見。緊張感が続く24時間体制の医療現場で、業務内容の変化が多い看護職に就いていると、生活リズムの変調などもあるでしょうが、仲間を信頼し患者さんを想う姿勢に、最大級の「ありがとう」を贈りたいです。



これからの家庭を支える新しい生活様式 ～家事代行サービスとは?～

地方ではまだ馴染みのない「家事代行サービス」。家事代行サービスの「家事」とは、掃除、洗濯、料理、買い物などのこと。

富山県は共働き率が全国上位であり、女性も家事に仕事に奮闘しています。そんな家庭を支えるべく、「家事代行サービス」を提供している会社が富山市にあります。今回は、それぞれの家庭の要望を聞き、オーダーメイドでサービスを提供している「有限会社中央ケアサポート」を訪ねました。



有限会社 中央ケアサポート
代表取締役 水上 克美 さん

妻の家事時間は夫の2倍以上!?

昔のように、女性は家庭を守り、男性は外で働くという時代ではなくなりつつあり、「女性活躍」という言葉がよく聞かれるようになりました。しかしながら、全国の共働き世帯における1日の家事・育児に充てる時間は、妻が夫の2倍以上というデータがあります。しかも、単独世帯の男女ではほぼ同じ家事時間が、夫婦世帯では妻の家事時間は増加するのにも、夫の家事時間は減少しているというデータも。また、2019年の報道によると、共働きが多い富山県は、女性は家事や育児にも追われ、睡眠不足と感じる割合が全国で最も高くなっています。共働き世帯の家事時間を減らし、ひいては女性の活躍やワークライフバランスを推進するには、家事代行サービスの利用も有効な手段かもしれません。

ただ、地方では利用への心理的なハードルがあると言います。「まだまだ富山県では知られてないし、そんなサービスを利用しなくてもいいのでは」という声もあります。しかし、特に女性はライフステージにより働き方が大きく変化していきます。そんな女性が一人で働き方に悩まないようにサポートできる社会になっていけたらと思います。」と水上さん。

また、あまり知られていませんが、介護を理由に退職した人のうち、7～8割近くが女性とのこと。中央ケアサポートでは介護のサポートも行っており、介護と家事代行を併用した全国的にも珍しいサービスを展開するなど、女性の生き方に徹底的に寄り添おうと努力されています。

家族にしかできないことは家族で!

※最近では少しずつですが、介護だけではなく子育て世代の利用者も増えてきたとのこと。

「私たちができることは、あくまで家事の代行です。家事を代行することで家族の会話や皆で過ごす時間が増えて、家庭に笑顔が溢れたらいいなと思っています。特に、子どもがいる家庭は、パパもママも家事ではなく育児に専念して、子どもとの「いま」の時間を大切にしてほしい!」と水上さん。「家事代行をしている間に、近くの公園での時間を楽しむなど少しの余裕を作れるようになってもらえたら。」と続けられました。



産後のママたちも利用して、産後うつの解消や、その後の仕事復帰への導線をひき、女性が活躍できる社会が広がっていくといいですね。中央ケアサポートでは、ワークライフバランスを考える機会を広く提供するため、「くらし・働き方Labo.」という交流会などの取り組みもされています。

「家事代行を利用してみる?」 家庭で家事・育児を考える時間を作ろう!

中央ケアサポートが平成2年に家政婦紹介業として創業してから30年以上経ちますが、まだまだ利用のハードルが高く感じられたり、家事代行で働く人が低く見られたりすることもあるようです。そんな社会を変えたいと、中央ケアサポートでは「家事代行サービス認証」を取得するなど、皆さんが安心して利用できるように努力が続けられています。女性の就業率が高い富山だからこそ、家庭をサポートするようなサービスが広がっていくといいなと思います。

「心に余裕ができて、お互いに笑顔が増えた」と、月に2回料理の作り置きに伺っている共働きのご家庭から、「嬉しい報告」をいただいたと水上さん。どの家庭でも、たくさん会話をして、どのように家事や育児、介護をしていくのか話し合いの機会を持ち、より良い暮らし方を考えてもらえたらと思います。「ITなどの技術が進み、家事や介護も進歩して、家庭円満が広がればいいですね。」と水上さんは富山の家庭の未来を見つめておられました。

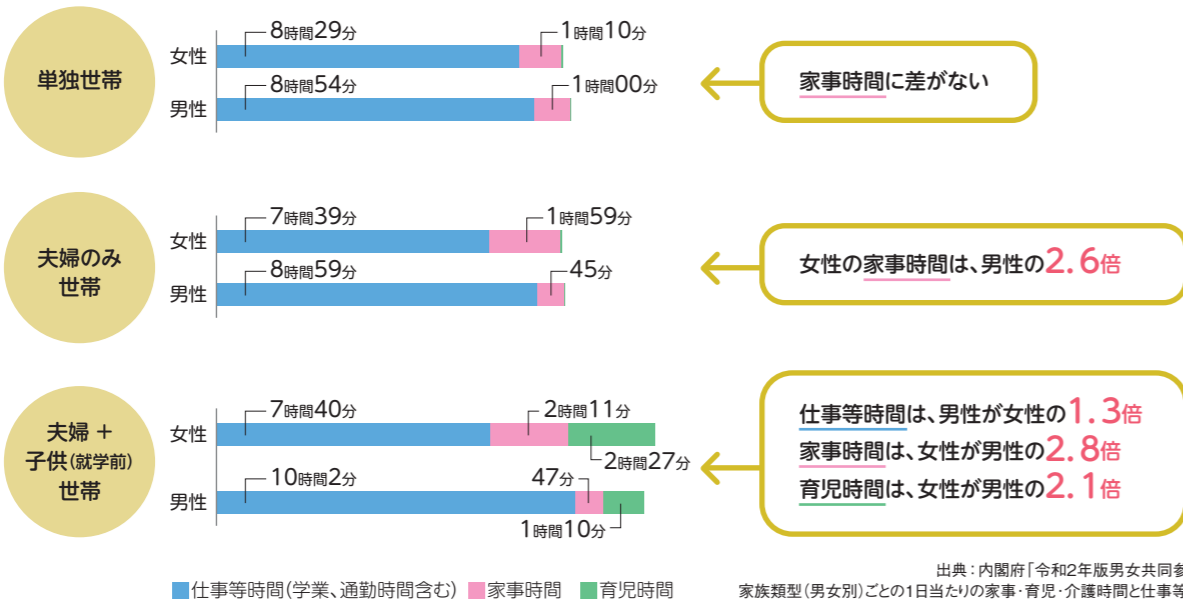


家事代行サービス認証証を持つ水上さん

※全国家事代行サービス協会と日本規格協会グループが行う第三者認証サービス。利用者が効率的・合理的に事業者を選択することができるよう、家事代行サービスの品質を評価・公表している。

1日当たりの家事や仕事の時間※

※仕事をしている人の「仕事のある日」



出典：内閣府「令和2年版男女共同参画白書」
家族類型(男女別)ごとの1日当たりの家事・育児・介護時間と仕事等時間より

(有) 中央ケアサポート

所在地：富山市二口町5丁目4-1 テフィスD棟1階B号室

創業：平成2年6月

事業内容：家事代行サービス、家政婦紹介、訪問介護、障がい者自立支援、仕事と介護の両立支援





REMOTE WORK



「リモートワーク」という新しい働き方



「新しい働き方」として、自宅など会社から離れた場所で働く“リモートワーク”が急速に取り入れられています。子どもが生まれてから令和2年3月までの約8か月間、ご自宅で育児をしながらリモートワークで勤務された梶さんにお話を伺いました。

梶 朋晃さん profile

氷見市出身。
妻、子1人、妻の家族とともに
富山市に在住。



リモートワークをすることになったきっかけ

妻も私も仕事をしていたので、どうやって2人で育児をしていこうかと悩んでいました。そこで、会社に相談したところ、会社側もリモートワークを取り入れる良い機会と捉えてもらい、トライアルとして私のリモートワークがスタートしました。私も親が自宅でレストランを営んでいることもあり、「家で働く」ことに抵抗はありませんでした。

リモートワークをしてみても

週に1日は会社に出勤していたので、職場の方と顔も合わせますし、取引先ともオンラインで会議するなど、十分やり取りができました。1人で集中して仕事のできたので、スケジュール通りに進めることができ、効率が良かったです。通勤の必要が無く場所にとられない働き方には、様々な人材を確保できる長所がありますが、業種や家庭の状況によっては成果が大きく左右されてしまう短所もあります。私の場合は、妻と協力して育児ができたこと、仕事部屋を用意できる環境だったので、リモートワークを続けられました。



リモートワークと育児について

子どもを抱っこし、あやしながらオンライン会議を視聴するなど、苦労したこともありましたが、生まれたばかりの大切な時期に子どもと触れ合えたことは貴重な経験でした。また、夫婦でお互いに協力して、家事・育児と仕事を両立できたことが良かったですね。でも、

リモートワーク以外にも「休業」「短時間勤務」など色々な制度があるので、それぞれの目的や状況に合わせて活用することで、様々な働き方を選択できれば良いと思います。



リモートワークの可能性

リモートワークは職場や自宅の場所に関係なく働けることから、多様な人材を採用することができます。また、育児に限らず介護でも在宅勤務を活用できます。この先、介護をする人が増えていくことを考えれば、様々な働き方を選択できるようになるのは良いことだと思います。リモートワークをすることを目的とするのではなく、あくまで福利厚生「手段」として多様な働き方ができるカラフルな企業が増えていくことを願っています。



建築設計を仕事にする移住者視点の新しい生活様式とは？



富山市立図書館などが入る「TOYAMAキラリ」の設計に携わった齋田さん。2013年から2年間の“お試し移住”を経て、同じく建築設計を仕事とする妻の本瀬さんと一緒に富山市に移住されました。都会から地方へ移住し、仕事や暮らし、夫婦の在り方はどう変わったのか？ 齋田さん・本瀬さんご夫妻を訪ねました。

本瀬 あゆみさん・齋田 武亨さん profile

一級建築士。東京から富山市に移住。
2015年、本瀬齋田建築設計事務所を開設。

地方という“リアリティ”のステキさ

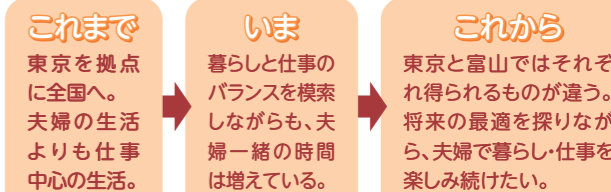
元々、齋田さんは隈研吾建築都市設計事務所に在籍していました。「TOYAMAキラリ」の設計のため、東京から通って仕事をしていた頃は、駅と現場の往き来のみで、“富山に触れる”という機会が少なかったといいます。その時に、隈研吾氏から「建物を建てる場所・人が重要」だと教えられ、少しずつ食や人、地域といったリアリティに触れる中で富山が好きになり、また、都会とは違う人と人とのネットワークの広がりから、少しずつ住むことを考えるようになったそうです。

本瀬さんも「独立して、育児・教育・介護などを行うリアリティが東京では描けなかったこともあり、移住を決めました。」と続けられました。

富山は「まちを設計する」という意識がある地域

「富山を選んだのは、仕事をする上で“まちを設計する”というポジションがあると感じたことも大きかったです。大工さんに相談して建てるだけではない設計士という分野の仕事が富山には存在すると感じました。」と齋田さん。「建築とは場を作ることを指す。空間を活かし、どう展示するかといった“場の使い方”の提案など、富山に来て仕事の幅も広がりました。」と続けます。移住してコミュニティの一員として入ったからこそ、富山での仕事も少しずつ確立。設計は生活の変化と密接に関係するため、多様性を受け入れることの大切さも感じ、それぞれの想いに耳を傾けることを大事にされています。

夫婦の暮らしと今後



本瀬さんは、現在東京での仕事もあり、東京と富山の2拠点で生活されています。東京で受ける刺激と地方で触れる温かさ、双方に良さがあるそうです。特にこのコロナ禍では、富山にいて息抜きができ、心が救われたとのこと。

仕事の充実から暮らしが成り立つという齋田さんと、暮らしの充実から仕事を考えるという本瀬さん。私たちもお二人のように、夫婦の暮らしや仕事の在り方は夫婦で話し合い、お互いを尊重しながら、これからの生活を楽しんでいきたいですね。



齋田さんが手掛けた木製ジャングルジム「サンカクジム」。雪国特有の雪吊りや立山連峰のような形にすることで、まちの日常に溶け込む富山らしいデザイン。

市民フェスティバル2020

令和2年11月15日(日)、一人ひとりがその個性や能力を発揮し、互いに支えあう男女共同参画社会を実現するために、「男女共同参画とやま 市民フェスティバル2020」が、富山県民小劇場オルビス(富山市桜町:マリエとやま7階)で開催されました。

令和2年度 男女共同参画社会づくり作文コンクール表彰式



受賞された皆さん

イベントでは、まず「令和2年度男女共同参画社会づくり作文コンクール」の表彰式が行われ、市内各中学校から応募があった133点の中から、最優秀賞1点、優秀賞4点が表彰されました。

また、最優秀賞を受賞された江尻柚菜さんによる作文の朗読では、「性別の縛り」と題して、性的少数派とされる人々に対して排他的な世の中に疑問を持ち、偏見のない

自由な生き方ができる社会になってほしいと述べられました。

日頃触れることがない、中学生の男女共同参画に対する思いを知るとともに、江尻さんの堂々と朗読される姿やしっとりとした考えに、大変感銘を受けました。会場に訪れている方も聴き入っている様子で、朗読が終わった後には江尻さんに向けて大きな拍手が贈られました。



作品を朗読される江尻さん



表彰式

講演会 「夫婦のトリセツ～脳科学から見える男心と女心の違い～」

くろかわ いほこ
講師:黒川伊保子さん

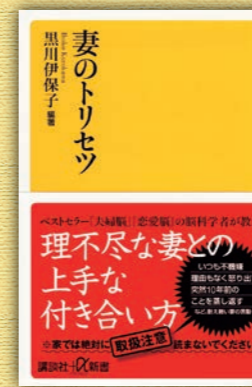
株式会社感性リサーチ代表取締役の黒川伊保子さんを講師にお招きし、「夫婦のトリセツ～脳科学から見える男心と女心の違い～」と題して講演が行われました。



講演冒頭、黒川さんから、男女の脳の構造やスペックはほぼ同じであるものの、とっさに使う回路の初期設定に違いがあるとの説明がありました。この違いは、大昔の狩猟時代において、狩人であった男性は、「遠く」の獲物を狩り、また、危険な荒野で生存するために、「目的に潔くロックオンして問題解決を急ぐ回路」を優先的に使用したのに対し、女性は愛することも守るため、「近く」の細かな変化を見逃さず、周囲と協力する「共感と気づきの回路」を優先して使用したことによるものとのこと。

そのため、共感してほしい女性と共感することが難しい男性では、話が噛み合わないのは当たり前だと笑って話される黒川さん。日常で繰り返される「夫の思いやりの言葉が無い正論」や「返事をしただけで悪くなる妻の機嫌」が例に挙げられると、会場に訪れていた多くの方が笑いながら「うんうん」と頷いておられました。

また、黒川さんは、夫婦が仲良くするためには、男性はなるべく女性の変化に気付き「共感」した上で感謝の言葉を伝えること、女性は男性の「正論」にいちいち反応せず、



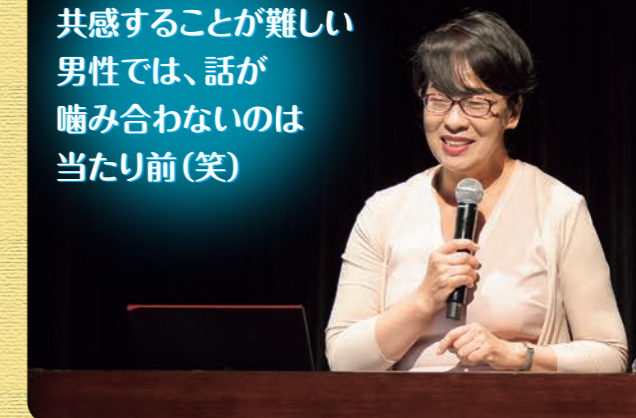
▲黒川伊保子著「妻のトリセツ(講談社刊)」



時には沈黙することも必要であるとアドバイスされました。そして、「遠く」を見据えてゴールを重視する男性と、「近く」を注視してプロセスを大切にする女性が力を合わせれば、最高のパフォーマンスを生み出せると力強く語られました。「夫婦喧嘩も、ぶつかり合うことで正しい情報が多く共有され、それがより高い生存率に繋がります。全く違う2つの装置がペアになることで人は生存の可能性を最大にしています。」との言葉に、会場の方々も感銘を受けているようでした。

講演会の最後には盛大な拍手が黒川さんに贈られ、参加者の方からは「家に帰ったら、ぜひ実践したい!」との声が上がっていました。

共感してほしい女性と
共感することが難しい
男性では、話が
噛み合わないのは
当たり前(笑)



軽快に話す黒川さん

黒川伊保子さん profile

1959年長野県生まれ。人工知能研究者、脳科学の見地から「脳の気分」を読み解く感性アナリスト。人工知能(AI)エンジニアを経て、2003年にことばの潜在脳効果の数値化に成功し、多くの商品名の感性分析に貢献。アカデミックからビジネス、エンタメまで、幅広く活躍し、「妻のトリセツ」をはじめとする数多くの著書が人気を博している。

令和2年度

男女共同参画社会づくり 作文コンクール



富山市では、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現に向けた意識づくりのため、市内の中学生を対象に、毎年、男女共同参画に関する作文を募集しています。今年度は、133点の応募があり、その中から入賞された方と最優秀賞受賞作品を紹介します。

作品応募総数 **133点**

(敬称略・五十音順)

最優秀賞

性別の縛り

岩瀬中学校3年 江尻 柚菜

優秀賞

女性が活躍する社会

上滝中学校3年 杉木 歩花
男女共同参画の実現に向けて
山室中学校3年 竹下 新之典
男女平等社会を生きる
岩瀬中学校2年 中野 美結
みんなで支え合う社会
堀川中学校2年 氷見 和奏

佳作

男女差別のない未来へ

南部中学校2年 岡崎 結真
希望あふれる世の中に
上滝中学校2年 表 千尋
男女平等と自分らしさについて
南部中学校3年 川端 依愛
苦しむ人に私達ができること
上滝中学校2年 久郷 萌生
本当の価値とは
上滝中学校3年 恒田 蒼太郎

指揮者

岩瀬中学校3年 野尻 麻妃瑠
自分らしく生きる
岩瀬中学校2年 松原 結菜
男女共同参画社会づくりについて
芝園中学校2年 村上 絆樹
男女平等について
上滝中学校2年 山崎 芯
男性の美意識について
上滝中学校2年 吉田 莉央

最優秀賞

性別の縛り

岩瀬中学校3年 江尻 柚菜

みなさんは、自分の性別に満足しているだろうか。多様化する社会、性別の枠に囚われず活躍できる現代においても、未だ生きづらさを抱える人は少なくない。

友達と話しているとき、たまにこんなことを聞かれる。「柚菜は女でよかった?」

心の中で繰り返し自問する。だが、正直、分からない。私は女だが、「男性」という性別に憧れがある。

自分の性認識が男でも女でもない人のことを、「X(エックス)ジェンダー」と言うらしい。近年、その数は増加傾向にある。しかし、新聞に載っていた「身のまわりに性別で悩んでいる人はいると思うか」というアンケートでは、「いないと思う」が半数以上を占め、「いると思う」は二割程度に収まっていた。インターネットの掲示板を覗いても、性的少数派に対して否定的な意見が予想

以上にあった。鋭利な言葉で批判する人もいた。私は心が苦しくなった。

自由に生きる権利は誰にでもあるはずなのに、性的少数派は少し排他的な見られかたをされていると思う。自分を認めてもらえないことほど辛いことはない。性の多様化する世の中、自己表現のしかたは何百通り、いや、何千通りあってもいいと思う。もし自分の性別に疑問をもっているなら、うやむやにせずに向きあうことが大事だと思う。自分を見つめ直すことで、性についての新しい視点を見つけることができるかもしれない。自分らしい生き方に辿りつけるかもしれない。

そして、いつかは「私は〇〇です!」と、気後れせず言える、偏見のない自由な社会になってほしい。

TOYAMA KAJIDAN MEISTER SCHOOL 2020

「家事ダン」マイスター認定講座に潜入取材!!

家事ダン=「家事男子」や「家事旦那」の略で、料理・掃除・洗濯などを積極的に行う男性のこと。富山市では、女性活躍の環境づくりを目的として、男性を対象に、家事のコツを学ぶ「家事ダン」マイスター認定講座を開催しています。

令和2年度に開催された講座

第1回 9月 家庭のための「話す・聞く」コミュニケーション講座

第3回 11月 明日から即実践! 家庭での洋服のお手入れ講座

第2回 10月 お家で居酒屋気分! 魚のさばき方 フクラギで居酒屋3点盛り講座

第4回 12月 しあわせは食卓から 男子ごはんのススメ ~知識編~

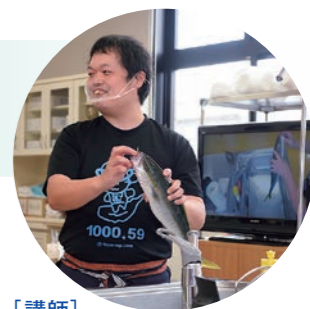
第5回 1月 我が家はこれで家庭円満でした! 頑張らない整理収納の基本 ~実践編~

あいのかぜ編集委員が取材しました

第2回

10月11日(日) 富山市大久保ふれあいセンターにて開催

お家で居酒屋気分! 魚のさばき方 フクラギで居酒屋3点盛り講座



【講師】清水 智紀さん
居酒屋YATAI せからしや店長
千石町通り商店街振興組合理事長

受講者の大半が日ごろ包丁を握ることは少なく、ゆえに料理を完成させるなど夢物語...という雰囲気なのが、講座開始。取材で立ち会っている私の胸もドキドキするほどの緊張感です。

新型コロナウイルス感染症対策として、調理室にモニターを設置、指導にあたる清水智紀先生の手元が映し出されます。真剣な表情で凝視する受講者の皆さん。ゆっくりじっくり説明を聞いた後、各自一尾ずつ目の前に置かれたフクラギとの「格闘」が始まります。



清水先生は、「私の場合、幼少期に自宅で炊事を手伝ったことや、学生時代のアルバイト経験から、ごく自然に料理を生業にするようになりました。興味を持ち、挑戦し、そして慣れることが料理と上手に付き合っていくコツです。」とコメント。「特に男性の作る料理は、自己流にカスタマイズされていて楽しいですよ。」とも。確かに、同じ材料と同じレシピで造られた「フクラギ3点盛り」ですが、お皿によって表情が違って個性が上がりつつあります。

講座終盤あたりからは、「ヨシ!」といった自信に満ちた声も聞こえてきました。材料を取り分けたり、調理器具を渡しあったりするうちに、お隣同士を意識した会話も弾み、とても和やかな講座風景です。「人の手が欠かせない料理は、相手を気遣う思いやりで直結する素晴らしいものだ」と再確認し、ほっこりした優しい気持ちになりました。

受講者に「家事ダン」マイスター認定講座の感想を聴くと、「妻に勧められて参加しましたが、その興味深い内容とできることが増える楽しみは、回を重ねるごとに増えています!」と大満足の様子でした。



まるでお店みたいに美味しく盛り付けられました!

全5回の受講を経て「家事ダン」マイスターに認定されることで、皆さんの活躍の場がさらに増えますね!



男女共同参画推進センターからのお知らせ



ひとりで
悩まないで

各種相談を行っています

相談日程は、毎月、広報とやま20日号で案内しています。

DV(配偶者・パートナーからの暴力)相談

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことを言います。
夫婦・パートナー間の悩みなど、ひとりで悩まず、ご相談ください。



●DV相談 専用電話 Tel.076-433-2210 ※来所相談については、電話予約をお願いします。

弁護士による夫婦・男女に関する法律相談

女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

男女共同参画講座を開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。
詳細は広報とやまに随時掲載します。どうぞお気軽にご参加ください。

●お問い合わせ 富山市男女共同参画推進センター 新富町一丁目：CIC3階 Tel.076-433-1760

「あいのかぜ」の編集委員を募集します

●募集資格 市内在住の20歳以上の方で、令和3・4年度の2年間、編集委員として活動し、平日の日中に開催される編集会議に常時参加できる方
(「あいのかぜ」は年1回発行。編集会議は年6回程度開催。)

●募集人数 3人(面接により選考) ●任期 委嘱した日から令和5年3月31日まで

●仕事内容 企画、取材、原稿作成、レイアウトなど

●応募方法 4月16日(金)までに所定の応募用紙に必要事項を記入し、直接またはFAX、郵送、E-mailで、男女参画・市民協働課へ。
※応募用紙は、男女参画・市民協働課、男女共同参画推進センターにあります。(E-mailで応募の方は応募用紙のデータを送信しますので、連絡してください。)

●お問い合わせ

男女参画・市民協働課

〒930-8510 新桜町7-38：市役所
Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176
E-mail: danjo-01@city.toyama.lg.jp



編集後記

社会が大きく変動する中、リモートワークという新しい働き方に挑戦しながら子育てに励まれた梶さん。夫婦で協力合うことで最大のパフォーマンスを生み出せると語られた黒川さん。こうした取材から、男女がお互いの違いを尊重し助け合うことの大切さを学ぶことができました。この「あいのかぜ」が、夫婦や家族の皆さんで「男女共同参画」について話し合うきっかけになることを願います。2年間、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。(小林ゆきの 編集委員)



移住した建築設計士のご夫妻は地方での新しい暮らし・働き方を模索し、夫婦それぞれの在り方で地方を楽しんでいてこちらまで嬉しくなりました。暮らしを支える新しいサービス「家事代行サービス会社」は家族の幸せを願うサービスの普及を頑張っておられるのが印象的でした。模索し、話し合い、努力する。当たり前ですが、この流れがあってはじめて新しい時代を切り拓けると感じました。男女共同参画においても富山市民皆が話し合いを持ち、時代が一步進んでいくことを願います。(松田悠 編集委員)



去年、私たちの生活は新型コロナウイルス感染症の流行で一変しました。人と人との緊密なコミュニケーションが制限されるなんて、だれが想像できたでしょう。あたりまえだと思っていたことが、実はとても尊いこと…。そんな時、医療現場の取材で知った「変わるべきなら変えていこう」と柔軟な姿勢で対話方法を探る看護師さんたちの力強さ。きつとずっと心労の絶えない中、地域医療を支える笑顔にただただリスペクトです。取材依頼に快く協力して下さったすべての皆様に感謝と、一日も早く平穏な日々が戻ってくることを祈ります。(能登香織 編集委員)



この号の発刊に際しまして、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。

■編集・発行

2021年3月発行

あいのかぜ

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画社会に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

富山市市民生活部 男女参画・市民協働課

〒930-8510 富山市新桜町7-38
Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176
E-mail: danjo-01@city.toyama.lg.jp